

「強じんな美し国ビジョンみえ(仮称)」および「みえ元気プラン(仮称)」概要案にかかる パブリックコメントでいただいた主なご意見と県の考え方

対応区分

①反映する：最終案に意見や提案内容を反映させていただくもの。 ②反映済：意見や提案内容が既に反映されているもの。

③参考にする：最終案や今後の取組に意見や提案内容を参考にさせていただくもの。

④反映または参考にさせていただくことが難しいもの。

(県の考え方や、施策の取組方向等と異なるもの。事業主体が県以外のもの。法令などで規定されており、県として実施できないもの。)

⑤その他(①～④に該当しないもの)

いただいたご意見等の取扱い

・本意見募集と関連のないご意見等が提出された場合は、そのご意見については公表していません。

・ご意見を公表することで、個人または法人の権利、競争上の地位その他正当な利益が害されるおそれがある場合は、その全部又は一部を削除しています。

・ご意見の中に誹謗・中傷等及び差別的あるいは差別を助長するおそれのある表現が含まれる場合は、置き換え、言い換え等の加筆、修正や削除を行っています。

・類似のご意見等が提出された場合は、適宜整理のうえ、まとめて公表します。

※「強じんな美し国ビジョンみえ（仮称）」・「みえ元気プラン（仮称）」概要案冊子におけるページです。

	該当箇所※			意見の概要	対応区分	ご意見に対する考え方	意見提供者
	プラン・ビジョン	ページ	施策				
1	全般			<p>人口の転出超過数(社会減)は、15歳から29歳までの若者が8割以上を占め、特に、20歳から24歳の女性の転出が顕著ということですが、この原因を、雇用や医療・教育といった”目に見えること“だけにあると考えるのではなく、企業や地域コミュニティにおける組織風土や対人関係といった”目に見えない”事象を分析し、課題として位置づける必要があるのではないのでしょうか。地方には地方特有のつながりがある。例えば、町内会・自治会などの行事に顔を出さなければならないことが煩わしいと感じる若い人も多い。このように、ある意味で地域全体が家族のような雰囲気がある場合もあり、この近すぎる距離感が苦痛になり、その地域を離れていく人もいます。逆によそ者が来たとき厳しく当たられることもあります。</p>	③	<p>若者の転出超過については、大学等への進学や就職等が背景にあると考えられますが、今後、本県の人口減少の実態や要因をヒアリングも含めて調査・分析し、様々な観点で対応策を検討していきたいと考えています。</p>	個人
2	全般			<p>加えて若者人口の社会減について一言付け加えるならば、こういった議論に関わるであろう、「各組織において影響力がある立場にある方」の御子息が、20代30代において、県内で活躍されていることはどれだけいらっしゃるのでしょうか。あまり多くはないと思います。親心として、若いうちは、より良い環境(企業や大学など)に息子や娘を送り出したいという心情は根強いです。そう考えると、若者の転出超過は解決すべき絶対悪なのではないのでしょうか。若者が都市部に憧れ、20代を華やかな都会で過ごすのは、むしろ健全なことなのではないのでしょうか。大切なのは、都市部で生活しながらも地元に関わりたいという方をどう生かすか、そして、年を重ねる中で子育てや介護などの際に、地元に戻りたい人をいかに受け入れるかという視点です。いわゆるU・Iターンの取り組みや、デジタル田園都市構想でも言われている二拠点／他拠点生活の後押し、または、地域の企業が副業や兼業人材を受け入れて多様な人材が活躍できるようにするといった、産業振興の側面からの関係人口の創出だと考えます。</p>	③	<p>地域への関心や関わりを深め、地域との関係を持つ人材は地域の課題解決・魅力向上に寄与することも期待されます。こうした関係人口を増やすことで三重県の活力の維持向上を図ることができるよう、様々な観点で対応策を検討していきたいと考えています。</p> <p>また、U・Iターンの取組では、移住としては、都市部において実施している相談会やセミナーなどを通じて子育てや住まいなど暮らしの情報を発信しています。学生や求職者に対しては、県内企業の情報発信や、県内企業へのインターンシップ、合同企業説明会の開催などにより、U・Iターン就職を促進していきます。</p>	個人

3	全般		<p>そして事実として、県内の企業、行政及び各種団体などで決裁権がある方は、特定の年齢や性別に偏っています。先人たちの努力と知恵に感謝しつつも、若者の目線から言えば、現在各組織の“役員”や“幹部“の方が、自分のまわりの多様性の無さに無自覚なのではないかということに懸念があります。変化や失敗を恐れず、責任(予算権と人事権)ある役割に女性、若者、障がい者などの多様な背景や環境で活動している人物を登用・育成することが、持続可能な事業活動や組織運営に欠かせないと考えています。</p>	②	<p>「ビジョン(概要案)第3章第1節政策展開の基本方向のⅢ共生社会の実現」に記載しているとおり、性別、年齢、障がいの有無、国籍・文化的背景、性的指向・性自認などに関わらず、誰もが個性や能力を持つ個人として尊重され、希望を持って日々自分らしく生きられ、自分の目標に向けて挑戦し、能力を発揮し、参画・活躍できるよう取り組んでいきます。</p>	個人
4	全般		<p>最後に若者のシビックプライドを育む具体的な提案を一つさせていただきます。各部局で必要に応じて設置される有識者会議と同程度に位置付けた「サステナブル未来議会三重U30(仮称)」を創設し、「みんつく予算」のスキームを参考にしながら、若者目線の予算案を構築し提案する仕組みの構築を検討していただきたいです。 今回の、「強じんな美し国ビジョンみえ(仮称)」と「みえ元気プラン(仮称)」の最終案のとりまとめにおいて、U30の若者の意見を反映させるような体制(若者の意見を集めるワークショップの企画や、有識者会議の委員に若者を登用すること)も必要ではないでしょうか。長文失礼いたしました。</p>	③	<p>「強じんな美し国ビジョンみえ」および「みえ元気プラン」では、県民の皆さんが三重に愛着を持ち笑顔で明るく暮らせる三重づくりに向けた取組をスタートさせたいと考えています。このためには、県民の皆さんが自らまちづくりに参加していただくことが重要であり、これまでも若者の皆さんに参画いただき、脱炭素社会の実現やSDGsの効果的な普及啓発へ向けて、様々な意見やアイデアを議論してきました。引き続き、様々な機会を利用して、若い方々の意見を反映できる仕組みを検討していきたいと考えています。</p>	個人
5	プラン	52	<p>「・・・適切な森林整備を進めます。」について、以下の理由により加筆・修正をお願いしたい。 (理由) 森林環境譲与税及び森林経営管理法の制度化により未整備な森林の整備については、市町の果たす役割が重要となっています。しかし、現在のところ市町の森林・林業行政ではマンパワー等が不足し、期待される役割を果たせない状態です。一方、県に対しては、毎年1.4億円余の森林環境譲与税が「市町の支援等に関する費用」として譲与されており、県の役割として「市町が取組む森林整備を支援する」ことは大変重要になっていると思います。ついては、「・・・適切な森林整備を進めます。」だけでなく文中に「市町の取組を支援する」旨を加筆していただくようお願いします。</p>	①	<p>県では、これまで森林経営管理制度の円滑な実施に向けて、みえ森林経営管理支援センターの設置や、みえ森林・林業アカデミーにおける市町職員講座の開催など、市町への支援を行ってきました。 未整備の森林整備を着実に実施していくためには、これまで以上に市町との連携が大変重要であると考えており、最終案では、「市町との連携」を追記します。</p>	団体等

6	プラン	52	林業の振興と森林づくり	<p>「みえ森林・林業アカデミーを中心に・・・新規就業者の確保に取り組めます。」について、以下の点をご確認のうえ必要があれば加筆・修正をお願いします。</p> <p>(確認事項) 「施策6-1農業の振興」及び「施策6-3水産業の振興」の取組方向では、「担い手の確保」に関しては「普及指導員が中心となり・・・」との記載があります。一方、「施策6-2林業の振興と森林づくり」には「普及指導員」が明示されていません。これはどうしてでしょうか。新規就業者のフォローアップ等林業の担い手の確保に関しても林業普及指導員に期待される役割は大きいものがあります。「みえ森林・林業アカデミーや林業普及指導員を中心に・・・」のような修正が必要ではないでしょうか。</p>	④	<p>林業普及指導員の役割は、多岐にわたっているなかで、人材の育成に関しても重要な役割を担っています。</p> <p>県では、林業普及組織とみえ森林・林業アカデミーとの連携体制を強化したところであり、引き続き、アカデミーを中心に林業普及指導員と一体となって、林業・木材産業を担う人材の育成に取り組んでいきたいと考えています。</p>	団体等
7	プラン	4		<p>上から8行目の下線部について、→のとおり、修正意見を求めます。</p> <p>「障がい者雇用においては、今後も法定雇用率は上昇する方向で改定され、対応できない県内企業が増加することが懸念されます。また、働く意欲のある障がい者が活躍できる環境づくりが急務となっています。」</p> <p>→「～、今後も法定雇用率の上昇に伴い、雇用率未達成企業の増加が懸念されます。」</p> <p>(理由) 法定雇用率の上昇が企業にとってネガティブな印象を与えかねないため。</p>	①	<p>ご指摘をふまえ、「今後も法定雇用率は上昇する方向で改定され、対応できない県内企業が増加することが懸念されます。」を「今後も法定雇用率の上昇に伴い、雇用率未達成企業の増加が懸念されます。」に修正します。</p>	個人 (地方創生会議委員)
8	プラン	4		<p>上から11行目の下線部について、→のとおり、修正意見を求めます。</p> <p>「～外国人労働者の需要が依然として高い状況が続いており、～」</p> <p>→「～就業者数は高水準で推移している」</p> <p>(理由) 需要が「人」を指しているとしたら、これも企業にとってネガティブな印象を与えかねないため。</p>	①	<p>ご指摘をふまえ、「県内企業において外国人労働者の需要が依然として高い状況が続いており、外国人労働者に配慮した企業側の労働環境の整備が課題となっています。」を「県内企業において外国人労働者の就業者数は高水準で推移しており、外国人労働者に配慮した企業側の労働環境の整備が課題となっています。」に修正します。</p>	個人 (地方創生会議委員)

9	プラン	20		<p>上から11行目の下線部について、→のとおり、修正意見を求めます。 「男性の育児参画など、結婚・妊娠・出産への支援や子育てしやすい環境づくりなど、幅広い視点からの少子化対策を実施。」 →「男性の育児休業取得促進などの男性の子育てへの積極的参画、結婚・妊娠・出産への支援や子育てしやすい環境づくりなど、幅広い視点からの少子化対策を実施。」 (理由) 育児参画という文言だけでは、子を養育するために男性が育児休業を取得するという事までは結びつかない可能性がある。男性の育休取得促進のため改正育介法の趣旨を踏まえ、できれば「育休取得促進」と記載していただきたい。</p>	①	<p>ご意見をふまえ、次のとおり修文します。 「自然減対策として、出会いの機会の創出や、不妊や不育症に悩む方への支援、男性の育児休業取得推進など男性の子育てへの積極的な参画促進等、結婚や妊娠・出産、子育てなどライフステージごとに切れ目のない少子化対策を進めます。」</p>	個人 (地方創生 会議 委員)
10	プラン	75	ダイ バーシ ティと女 性活躍 の推進	<p>下から11行目の下線部について、→のとおり、修正意見を求めます。 「職業生活における男女格差の是正に向けて、企業・団体等と連携し、女性が希望に応じた働き方ができるよう、経営者および男性の意識改革や女性の目線にも立った職場環境の整備を促進するとともに」 →「働く人が性別により差別されることなく、その能力を發揮できる雇用環境の整備を促進するとともに」 (理由) 男女雇用機会均等法においては性別を理由とする差別は禁止しているが女性の希望に応じた働き方や女性目線の職場環境の整備を求めているため。</p>	①	<p>職業生活における男女格差がある中、女性の希望に応じた働き方や女性の目線にも立った職場環境の整備が進み、性別により差別されることなく、性別に関わらず能力を發揮できることは重要であると考えます。ご意見の趣旨もふまえ、「職業生活における男女格差の是正に向け、企業・団体等と連携し、組織における意識改革や人材育成・登用など、性別に関わらず能力を發揮できる職場環境の整備が一層進むよう取り組みます。」とします。</p>	個人 (地方創生 会議 委員)

11	ビジョン	8		<p>品川名古屋間の開業、これはないねんね。名古屋大阪間も。これは、起点が代わるから滋賀に起点とって(五畿七道の)せいぜい安土に新幹線の駅ができるかどうか。必要なくなってくる。</p> <p>そのかわり、大阪名古屋間、JR東西線を木津まで北新地から延伸したらいい、そしたら渋滞も減るし。今は片山線なんか使ってられへん。私もこの辺よく通るけど、桑名の方から伊賀、関西本線か片山線で電車の本数も増えるし、バイクで通るけど生駒清滝道路は要らなくなる。</p> <p>その延長に畿内の官衙がくることになる。これが一番行き来しやすい。東海道の官衙は豊橋やと思ってる。関西本線とついてるくせにけっこう不便で、四日市で30分電車待ちついで夜中に放り出されて22時台。</p>	④	リニア開業による効果が県内全域に波及し、地域活性化へとつながるよう取り組んでまいります。	個人
12	ビジョン	12		<p>リニア中央新幹線の開業も、首都圏がそっちなるから、それに地下を掘るの大変じゃないか。外国にもあるけど平坦で高低差くねくねのじゃ。そやから新幹線もあんな速く走って大丈夫か、老朽化の対策ぐらいで。</p>	④	リニア開業による効果が県内全域に波及し、地域活性化へとつながるよう取り組んでまいります。	個人
13	ビジョン	16		<p>県内駅の設置も要らない。言ってる間に起点(都)がかわる。</p>	④	リニア開業による効果が県内全域に波及し、地域活性化へとつながるよう取り組んでまいります。	個人
14	ビジョン	17		<p>多様な保育ニーズをふまえた福祉国家スウェーデンなどでは6時間短縮労働を小学校入学までできるらしい。</p> <p>日本は今3歳児までだが、6歳児まである3割はとれる(とれるところをとれないところある)土曜日保育をつけて(半日)残業に出してくれるんやったらというところもある。あるいは土曜日に残業して等企業がとりやすい。とれるところからとっていったらいい、保育の負担も減る。ニーズもかわる。</p>	③	<p>県内においても、ライフ・ワーク・バランスの推進や次世代育成支援などの働き方改革が進んでいるところです。企業における働き方改革が進み、多様な働き方ができることで、保護者の負担の軽減につながり、子育て環境が充実すると考えています。</p>	個人

15	全般			おおむね10年先を見据えたビジョンは県内「産」「官」「学」の強い連携の中で若者が夢をもてる、又、高齢者、障害者、子供にもやさしい県土を目指して欲しい。	③	「強じんな美し国ビジョンみえ」および「みえ元気プラン」では、政策展開の基本方向(四本の柱)にて、「安全・安心の確保」、「活力ある産業・地域づくり」、「共生社会の実現」、「未来を拓くひとづくり」を掲げ、若者や高齢者を始めとする県民の皆さんが、三重に愛着を持ち笑顔で明るく暮らせる三重づくりに向けた取組を推進していきます。	個人
16	全般			人口減少対策が何とか解決できないか。	③	人口減少対策は、一朝一夕で解決できない構造的な問題ですが、人口減少の実態を把握し、エビデンスに基づいて、より効果的な取組に全庁を挙げて強力に取り組んでいきたいと考えています。	個人
17	ビジョン	17		1行目の「文化芸術を保存継承しようとする取組を支援するとともに」には、保存継承だけでなく、文化芸術を創造しようとする取組も支援する表現を入れた方が、前段の“個人や地域におけるアイデンティティの基盤や心の豊かさを育む”ことに繋がると思います。※昨今では対戦型ゲーム等の「e-スポーツ」という新たなスポーツの文化も広がりを見せており、政策展開の方向性としては、新たな価値を生み出す創造という観点も支援する姿勢を出してほしいと感じています。	①	観光やまちづくりなど多様な主体と連携し、生み出される新たな価値を文化芸術の保存継承等につなげていく取組の支援について、「強じんな美し国ビジョンみえ」および「みえ元気プラン」の施策16-1へ反映します。	市町
18	プラン	20		「不妊に悩む方」を「不妊や不育症に悩む方」としてはどうか。※P.92の表現と合わせる。	①	ご意見をふまえ、以下のとおり修正します。 「不妊や不育症に悩む方・・・」	市町

19	ビジョン			日本の文化聖地である「美し国」に生まれて、育ってずっと三重県で暮らしている県民です。三重県民の立場で情報公開を推進し、文化力を高め、「新しい時代の公」に取り組んできました。そして、伊勢志摩サミットを経験させていただきました。今後は、三重県民としての感性を磨き続けていきたいと考えておりますが、そのような県民にとっては、ビジョンの名称にかなりの違和感があります。国土強靱化基本計画などで使われている「強じんな」ということばと、「美し国」ということばをくっつけないでほしいと思います。あまりにも残念すぎます。ビジョンの名称を変更してください。	④	「強じんな美し国ビジョンみえ」という名称は、県民の皆さんが安全・安心に、豊かさを実感しながら暮らしていける持続可能な地域にしていきたいという思いで付けています。こうした理念が県民の皆さんに伝わるよう説明していきます。	個人
20	プラン	46、53		「きれいで豊かな海」をめざして取り組んでいく必要があるということが記載されていることはうれしく思うが、p53の水産業の振興では、同様の記載がないのが残念である。(関係者がどこまで目を通すか疑問なので)	①	気候変動等の影響により、伊勢湾の漁場生産力の低下が懸念されるなか、「きれいで豊かな海」の実現に向けた取組は大変重要であると認識しています。最終案では、施策「水産業の振興」において、「伊勢湾における漁場生産力向上対策の推進」を追記します。	団体等
21	プラン	87	教育環境の整備	子どもたちを取り巻く環境が大きく変化していることで、新学習指導要領が定める「社会に開かれた教育課程」のような、まさに社会と連携・協働した教育活動が求められていると認識しています。そして、それらを実施するためにコミュニティスクールの推進等が施策13の取組方向に記載されているのだと考えています。しかし、ただでさえ先生の働き方が問題視されている上に、STEAM教育やICTツールの活用など多様なことがより一層求められてくる学校現場の実情を踏まえると、コミュニティスクールの枠組みを導入するだけでは「社会に開かれた教育課程」の実現はすごく難しいように感じています。そこで、島根県の事例のように各高校単位レベルで学校と地域・社会を繋ぐ外部人材としてのコーディネーターが求められていると個人的には感じておりますが、これからのみえ元気プランではこのあたりについてどのように考えていらっしゃいますか。	②	子どもたちを取り巻く環境の変化に伴い求められる資質・能力が変化する中、学校は、専門家や地域人材の活用、地域との連携、高等教育機関や産業界の協力などにより社会とつながりながら学びを進めているところです。元気プランでは、引き続き、社会とつながった学びを「教育環境の整備」を含む施策全体を通じて大切にしていきたいとともに、高校と社会をつなぐ市町の「地域おこし協力隊」等の協力も得ながら、教職員の働き方改革についても取り組むこととしています。	個人

22	全般			<p>「強じんな美し国ビジョンみえ」(概要版)、「三重元気プラン」概要案共に、全ての課題について、広範囲に、ち密に網羅され、施策を含めて対応が示されていることなどは、大変良いと評価できます。</p> <p>その一方で、課題間の有機的な結合に関するアプローチがなく、大きく重要な課題への対処をどう実行するのかが県民に見えにくい側面があると感じました。例えば、医療、介護、福祉が連携して機能しなくてはならない地域包括ケアの分野などへの取り組みは、政策体系における2. 医療・介護・健康、12. 福祉、13. 子どもの内容を一体として示したほうが、県民に分かりやすく、かつ安心できる内容にもなると思われます。またすべてをまんべんなく実施していくことは難しいと思われるので、その中の最重要課題等の設置もあるのがよいかとも思われます。</p>	③	<p>政策体系は、県の取組等を網羅し、体系的に整理したものです。</p> <p>一方、プラン第2章「みえ元気プランで進める7つの挑戦」では、カーボンニュートラルや人口減少対策など、部局横断の取組が必要なものも含め、一層加速させていかなければならない課題を整理し、その解決に向け取り組むものを県民の皆さんへお示ししています。</p>	団体等
23	プラン	13		<p>(11)文化振興・スポーツの推進[めざす姿と取り組み方向] 「三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催競技が地域に根付くことにより」の表現ですが、「開催競技」の部分で「開催に向けて準備してきた競技」か「開催予定であった競技」にしてはいかがでしょうか？他にも同様の表現があるかもしれません。</p>	①	<p>ご提案いただいた表現については最終案の施策等に反映させていただきます。</p>	団体等
24	プラン	31	地域医療提供体制の確保	<p>医師、看護師については記載されていますが、その他のメディカルスタッフ(薬剤師、リハビリテーションなどの技師、医療通訳、MSWなど)についての現状と今後の取り組みはいかがでしょうか？</p>	⑤	<p>例えば、薬剤師では、関係団体等と連携した未就業薬剤師等に対する復職・転職支援、中・高校生に対する薬剤師(職業)の魅力発信等による人材確保に、リハビリテーション職では、関係団体の実施する研修への支援による資質の向上に取り組んでいます。他の職種でも、関係団体と連携した人材確保や資質の向上に取り組んでおり、引き続き、こうした取組を進めていきます。</p>	団体等
25	プラン	42	脱炭素社会の実現	<p>高齢化が進む人口減少地域などで、運転支援技術を施した小型EVの普及促進等、身近な観点の対策もありうるかと思えます。</p>	①	<p>運転支援技術を施した小型EV等の新たな技術を活用することで利便性や快適性の向上とあわせて温室効果ガス削減につながる取組を進めることは重要です。ご意見の趣旨をふまえ、施策4-1に脱炭素化につながる新たな技術の利活用の推進を図ることを記載します。</p>	団体等

26	プラン	47	観光産業の振興	伊勢神宮頼みではなく、全県で取り組めるストーリー作りはどうでしょうか。海と山があるのに観光に利用しきれていない、美しい自然の見どころはメジャーなところを除き、県民にすらあまり知られていないなどの現状もあります。広報を強化することが課題の一つだと思います。「モノ」の消費ではなく「コト」の消費を充実させるのも重要と考えます。	②	ご意見のとおり、本県には一般にあまり知られていない歴史・文化、食、自然など、まだまだ観光に利用しきれていない素材があると認識しています。元気プランにおいても三重ならではの魅力的な観光資源を磨き上げ、それらを生かした周遊ルートを活用することとしています。今後は、知的好奇心をくすぐるストーリー性も勘案して、県内各地の観光関係団体等と連携し、魅力ある観光資源(体験コンテンツ)の創出及び磨き上げやWEBなどを活用したプロモーションを行い、長期滞在に適した観光地としてのブランディングに向けて取り組んでまいります。	団体等
27	プラン	64	移住の促進	子育てしやすい土地であることをアピールすることが若い定住者を作るには重要だと思います。「きっかけ」をどう生み出すか、という観点の取り組みがあってよいのではないのでしょうか。また、三重県は都市圏から見ればどうしても田舎という捉え方になる場合がありますので、田舎であることを積極利用するアイデアを出すことが求められます。他の部分で記載されていたかもしれませんが、例えば、 ・テレワーク環境を整える ・バイト等お試しで来てもらう ・増加する空き家を移住者に安く利用してもらう等	③	ご提案いただいた視点につきましては、移住を考える方にとって重要な「きっかけ」であることから、県ホームページやSNS、移住相談会などあらゆる機会を活用し、三重の暮らしに関する情報の発信に積極的に取り組んでまいります。	団体等
28	プラン	66	東紀州地域の活性化	「熊野古道」については、和歌山との協力関係を構築しながら、観光資源として位置づけることを考えてはいかがでしょうか？	③	和歌山県とは、 ①奈良県も含めた3県での広域観光誘客事業 ②交通事業者等とも連携した、外国人旅行者も含めた受入環境整備事業 に取り組んでいるところです。 「施策9-4 東紀州地域の活性化」で和歌山県との連携を一層強化する旨を明記し、引き続きスケールメリットを活かした観光誘客に取り組んでいきます。	団体等
29	プラン	87	教育環境の整備	取り組み方向において、幼小中について言及されていないように思います。市町の教育と共に県が協力体制を進めていく必要があると思います。	②	教育環境の整備では、小中県立学校を包括しながら進めることとしており、市町の所管についても県は情報共有を図りながら協力していくこととしています。幼児教育は、施策15-2「幼児教育・保育の充実」に位置付け、県と市町が協力しながら進めることとしています。	団体等

30	プラン	93	文化と生涯学習の振興	冒頭、「少子高齢化の進展に伴い芸術文化を担い継承する人材が不足」とあるが、伝統芸能の衰退は、少子高齢化だけでなく地域共同体の変容や、人々が求める文化の質変化も原因だと考えます。多様化する志向にあわせた施策を期待します。	③	文化芸術の担い手の不足の要因は少子高齢化に伴うものだけでなく、社会環境の変化なども要因と考えます。ご指摘の視点もふまえつつ、今後の文化振興施策の推進に取り組みます。	団体等
31	ビジョン	8		本文では、「深刻な虐待事案は減少するものの、相談件数全体では増加、横ばいとなることを見込まれているほか」と記されているが、すべての虐待事案が把握できているわけではない。「県として把握した深刻な虐待事案」と表現する方が妥当かと考える。	③	ご指摘のとおり、すべての虐待事案を把握することは難しいと考えます。しかし一方で、県だけではなく、市町や地域社会全体で児童虐待の未然防止や早期発見・早期対応に努め、虐待被害から子どもが守られる社会に向けて、取組を推進してまいります。	個人
32	ビジョン	17		「社会の担い手となる力を育む教育に取り組みます。」と文末がくくられているが、「社会の担い手となる力を育むこと」は、大切な視点ではあるが「三重の教育宣言」でも、教育の「社会的意義」としての側面のひとつとされていることから、くくりの文としては違和感がある。「教育宣言」で筆頭に掲げられている教育の「個人的意義」である「生き抜いていく力」や「豊かな未来を切り開く力」などでしめくくる文にしてはどうか。	①	概要案では、子どもたちが、基礎となる力を身につけるとともに、社会の変化にしなやかで前向きに対応し、多様な他者と協働して、「社会の担い手としての力を育む教育に取り組みます」としていましたが、ご意見をふまえ、「豊かな未来を創っていく力を育む教育に取り組みます」に変更しました。	個人
33	プラン	74	人権が尊重される社会づくり	・現状と課題の一つ目、「性の多様性やインターネット上の人権侵害等の新たな人権課題が注目され…」とあるが、新型コロナウイルス感染症に係る偏見・差別や、インターネット上の人権侵害等は「新たな」といえる部分はあるかもしれないが、性の多様性については顕在化してきたものなので並列での「新たな」という表記は再考を求めたい。 ・「取組方向」の中の記載に、「人権啓発活動を担う人材の養成」をすすめていく視点がない。これまでの計画にはあった大切な取組と考える。「相談員の資質向上」とは意味合いが違うので加筆されたい。	①	施策12-1について、 ・ご意見をふまえ、「性の多様性やインターネット上の人権侵害等の新たな人権課題が注目され」を「性の多様性やインターネット上の人権侵害等が新たに人権課題としてより強く認識され」に修正します。 ・ご意見をふまえ、最後に「人権啓発活動を担う人材の養成に取り組みます。」を加筆します。	個人

34	プラン	81	子どもたちの基礎となる力の育成	<p>・「取組方向」の二つ目の項目の後段、「いじめの未然防止、早期発見、組織的な対応について確実に取り組む…」の記述は、いじめに関する組織対応や組織体制の構築に関わることであり、現行の第3次行動計画の政策体系では「13-4 安心して学べる教育の推進」に相当する施策の項であつかわれている。未然防止や早期発見などは「子どもたちの基礎となる力の育成」ではなく、現行のように「安心して学べる教育」のなかで独立した項目で記述されるべきだと考える。</p> <p>・「取組方向」にスポーツに関する記述はあるが、読書活動や文化芸術活動に関わる記述がない。「第6次学校図書館図書整備等5か年計画」(文科省)では、2022～2026年度までに1.3校に1人の学校司書が配置できるように地方財政措置としており、将来的には1校1人の配置を目標としている。加筆を求めたい。</p>	①	<p>・いじめについては、新たに施策を設けて記述しました。</p> <p>・施策14-1において、取組方向の基本事業「豊かな心の育成」の中で、子どもの読書活動の推進および文化芸術活動の推進に関する記述を追加しました。</p>	個人
35	プラン	84	特別支援教育の推進	<p>近年、外国人児童生徒の発達に関わる特別な支援を必要とする子どもたちについて、さらにきめの細かい対応が求められてきている。それらにかかわる記述が、本施策にも、【11-3多文化共生の視点】にも見られないので、項を起こして加筆を求めたい。</p>	③	<p>【施策12-3】では、国際交流協会やNPOなどの団体や県民、市町など、さまざまな主体が連携し、日本人住民と外国人住民の相互理解に向けた啓発や、外国人住民の安全で安心な生活環境づくりに向けた相談体制等の充実、多言語とやさしい日本語での情報発信などに取り組むことによって、多様な文化的背景の人びとが互いの文化の違いを認め合い、対等な関係のもとで地域社会を一緒に築いていくことをめざしています。引き続き、多様な主体と連携しながら多文化共生の推進に取り組んでいきます。</p> <p>① 発達障がいを含む特別な支援を必要とする子どもたちは増加しており、外国人児童生徒についても、その総数の増加とともに特別な支援を必要とする子どもたちの数が増加しています。このことから、施策14-3の現状と課題に「特別な支援を必要とする子どもたちはどの学校にも在籍していることから、全ての教職員が特別支援教育に関する知識・技能を身につける必要がある」ことを追記しました。外国人児童生徒に対する日本語指導・適応指導や就学促進等の支援については、今後も、市町と協力しながら、きめ細かい指導が行えるよう、取組の充実を図っていきたくと考えています。</p>	個人

36	プラン	85	安心して学べる教育の推進	これまでの行動計画では、この項に相当する箇所に「いじめや暴力のない学校づくり」についてとりあげられ、関係条例等に則り、組織体制づくりや組織的な対応について記されていた部分が、別の施策の一部に移動して記されている。体制づくりや組織的な対応についてあつかうのであれば、こちらの施策に位置づけられる方がより相応しいと考える。	①	いじめについては、新たに施策を設けて記述しました。	個人
37	プラン	87	教育環境の整備	・一人一台端末等のICT環境を活用した取り組みとして遠隔授業や講座受講等があげられているが、とりわけ、高等学校の課外の講座は単位認定に関わる授業ではなく、現状においても学校現場の熱意と工夫と努力によって支えられているものであることから、既存のものを見直したり、現状を理解していくことがまず優先されなければならない。	②	現在、高等学校の課外講座は、平日の放課後や長期休業中に各校独自で実施されています。ICTを活用することで教職員が教材等を共有しやすくなり、その準備の軽減につながると考えます。また、このような講座の受講機会が少ない学校の生徒が、ICTを活用して既に他校で実施している課外授業を受講できれば、学ぶ機会が増えるとともに、進路希望を同じくする生徒同士が学校の枠を越えて切磋琢磨する機会の提供にもつながると考えています。	個人
38	プラン	87	教育環境の整備	・県立学校施設長寿命化計画は、文字どおり「施設の耐用年数を延ばす措置の計画」の域を超えないので、便利で快適な学びの環境づくりというものには実際なっていない。計画の実施と並行して校舎改築計画を新たに立てて行く必要があると考える。	②	三重県立学校長寿命化計画は、学校施設の維持管理・更新等にかかるトータルコストの縮減と予算の平準化を図りつつ、学校施設に求められる機能・性能を確保するため、中長期的な施設整備の方針を示し、計画的に老朽化対策を進めることを目的としています。 現在、計画に基づき、長寿命化対策だけではなく、トイレの洋式化や、空調設備の整備、バリアフリー化などの安全・安心で快適な学びの環境づくりにも取り組んでいるところです。また、計画では、長寿命化改修を基本としつつも、減築、建替などあらゆる方法を組み合わせより効果的な改修や更新となるように取り組むこととしています。 今回のご意見を踏まえ、今後の実施計画において、さらに快適な学びの環境づくりが実現できるよう進めてまいります。	個人
39	プラン	90	幼児教育・保育の充実	学校教育法施行規則の一部が改正(2021.8)され、小中学校を対象とした「スクールカウンセラー」「スクールソーシャルワーカー」の配置に関する規定が幼稚園にも準用されるようになった。配置の促進が本プランでも明記されるべきであると考え	③	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの幼稚園への配置については、今後、市町教育委員会の意向や要望を確認しながら、検討を進めていきます。	個人

40	全般			(防災対策関連)地震・津波対策について、「南海トラフ地震臨時情報」(特に「巨大地震警戒」発表)に備えるための対策検討と方針の明示が急務と思われる。先般、県立学校については一定の方針を示されたが、各論ではなく、県としての総合的な対応方針を示す必要があり、ビジョン・プランへの取組方針の記述を求めたい。	③	「強じんな美し国ビジョンみえ」(概要案)・「みえ元気プラン」(概要案)では、南海トラフ地震を含めた大規模災害に対する主な取組方向を記載しているところです。 南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)発表時の対応については、既に三重県地域防災計画において、県、市町及びその他防災関係機関が実施する対策をお示ししており、いただいたご意見も参考にしながら取組を進めていきます。	市町
41	全般			(デジタル化関連)行政手続きのみならず、民間と連携した様々な業務、事業のデジタル化を進めるには「マイナンバーカード」の普及と定着、活用が不可欠と思われるが、ビジョン・プランへのこれに関する記述がない。県としての取組姿勢(方向性)の記述を求めたい。	①	マイナンバーカードの普及等については、引き続き市町と協力・連携しながら取り組むことが重要であると考え、施策10-2の取組方向にマイナンバーカードについての記述を追加します。	市町
42	全般			(観光施策関連)北勢地域における観光来客数の実績を誇る観光資源、北勢地域における地理的優位性を活かした観光施策についてビジョン・プランへの記述がない。県としての観光施策の取組姿勢(方向性)として、この具体的な記述を求めたい。	②	美し国ビジョンの第2章第3節「基本理念」において、県の北中部地域において、交通の利便性等を生かし、観光も含めた産業の一層の振興を図る旨の記載をしているところです。引き続き、県全体の誘客に取り組んでいきます。	市町
43	全般			(企業誘致関連)北勢地域における地理的優位性を活かした企業誘致推進についてビジョン・プランへの記述がない。県としての企業誘致の取組姿勢(方向性)として、この具体的な記述を求めたい。	②	ビジョンにおいては、第3節基本理念で「高速道路網の整備の進展によるさらなる立地環境の向上など、三重の強みや良さを生かし「選ばれる地域」にしていく」こと、「県の北中部地域においては、交通の利便性やものづくり産業の集積などの優位性を生かし、カーボンニュートラルの動きにも対応し、観光も含めた産業の一層の振興を図る」こと、「三重県は、日本の中のいわば成長のコリドーの一部をなす」ことなどの記述があります。またプランにおいても「めざす姿と取組方向」のなかで「交通網や新たな産業用地の整備の進展による立地・操業環境の向上を生かし、産業構造の変化を先取りした県内企業の再投資や企業誘致を推進します」との記述があり、北勢地域において地理的優位性を活かした企業誘致に取り組む方向性が示されています。	市町

44	ビジョン	目次		最終案の取りまとめに向けては「関係者や有識者等の議論」のみに閉じたものにはしないで、中間案の確定時点で再度のパブリックコメントを実施し、聴政の名に恥じることの無いように策定されたい。	③	ビジョン及びプランについては、令和4年2月に概要案を公表し、幅広く県民の皆さんのご意見を聴取するため、パブリックコメントを実施させていただきました。県民の皆さんや有識者、市町などからいただいたご意見を次に公表する最終案に反映することとしており、公表後には再度のパブリックコメントを予定しています。	個人
45	ビジョン	2		<ul style="list-style-type: none"> ・国内の人口予測に対する展望が甘い。この数字は社人研の中位推計をそのまま引っ張ってきただけに過ぎない。今までずっと中位推計と下位推計の間を推移した経緯を見てきて、それでもなお、10年後は中位推計ぐらいに収まるのではないかな、などという楽観的な予測を二度とするべきではない。 ・少子高齢化や高齢化率に対する展望も甘い。世界の全てで進行している少子化は、特に東アジアで激甚少子化となっている。日本は韓国や台湾より出生率が高いものの、超少子・超高齢の割合は地球上で最悪の状況から抜け出せない。さらに、コロナで国・県・市の無為、愚行、無助が露呈したため、10年後には地球最悪の超高齢・超少子を兼ね備えるだろう。 	①	<p>ご意見をふまえ、今後の将来推計人口が、昨今の出生数の低下により、下振れる可能性があることについて追記します。</p> <p>なお、国立社会保障・人口問題研究所が示している国内の将来推計人口は、人口統計学に基づき算出されており、地方創生を所管している内閣府をはじめ、多くの自治体が活用しています。</p> <p>本県ではこうしたデータもふまえ課題を改善するべく、本県の人口減少の実態や要因を改めて調査・分析し、あらゆる施策を検討して取り組んでいきたいと考えています。</p>	個人
46	ビジョン	2		<ul style="list-style-type: none"> ・日本で「2035年から自動車の新車販売のすべてが電動車となる」ことなどは無い。国内消費者の可処分所得が「激増をした場合にのみ」可能となるものだからである。中央官僚の妄想に過ぎず、実際には後倒しになると容易に推測できる。こんなものを三重県の計画に記載するべきではない。 ・日本において「2030年度に温室効果ガスを2013年度から46%削減することをめざすこと」は無い。中央官僚が算盤を弾き下方修正をするか、或いは、何らかの理由をつけて後倒しにするかのどちらかである。 ・日本が「高みに向けた挑戦」を行うことは無い。三重県のウォームビズの惨状を見て、一体何が挑戦であるか。高みに向けた挑戦などという画餅に付き合わされる県民の気持ちを著しく害するもので、こんな文言は削除されたい。クールビズやレジ袋有料化のような些細なことの積み重ねを、挑戦の名のもと、国内消費者に無理強いし続けてきて、どれだけの温室効果ガスが削減されたか。誤差程度の微減のために、どれだけの負担が官僚、企業、国民に強いられたか。今まで挑戦と 	③	<p>ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。</p> <p>変化が激しい時代にあって、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p>	個人

			<p>定義されたものは、美辞麗句で飾られた虚飾である。もはや既に中央官僚が、レジ袋の有料化制が機運だけの為に為され、排出量に寄与することを目的としない事を吐露している有様ではないか。</p> <p>・日本のような高齢国家では、「発電効率の高い太陽光発電や洋上風力発電の導入が進み、再生可能エネルギーの比率が高まっている」ことは無い。三重県においては特に、である。太陽光発電は、三重県のような超少子・超高齢の農業県では、農地集積に遅滞があって、高齢農家の土地に太陽光パネルが散在してしまっている。この農地の現状からは、太陽光発電に期待できない。風力発電は、三重県のような、可住区域が沿岸部に偏在している県土の特性がある地方では、洋上風力発電に、特筆して期待できる現状は無い。三重県のビジョンとして、こんな記載は相応しくない。三重県の現状を見ずに国の計画からそのまま引用しただけの記載ではないか。</p>	<p>④ 国は令和3年10月に地球温暖化対策計画を策定し、2050年までに脱炭素社会の実現をめざすため、2030年度における温室効果ガス排出の排出削減目標として2013年度比で46%削減し、50%の高みに向けて挑戦し続けることとしました。これとあわせて、再生可能エネルギーの主力電力化や自動車の電動化等の取組の方向性が「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」に示されました。強じんな美し国ビジョンみえでは、これらの国の計画や長期戦略をふまえ、おおむね10年先の展望をお示しし、その実現に向けて、さまざまな取組を進めていくこととしています。</p>	
47	ビジョン	2~3	<p>・三重県においては、AIなどのデジタル技術で新ビジネスの創出や地域の課題解決が図られることなどは無い。三重県が委託をする際に県外事業者を選定して丸投げをするからで、現状として東京や愛知の士業や学者の金儲けにばかり直結してしまっている。三重県が新ビジネスの創出の邪魔をして地域課題をより深刻にさせてしまっているというのが、現在の三重県の実態である。現実から目を背けてはならない。</p> <p>・三重県において10年後にデジタルインフラの整備が進展していることなど無い。地上デジタル放送のように、大都市が最優先されて、小規模都市や激甚過疎地は後回しになる。桑名市は名古屋市の余剰分から恩恵に与せるだろうけれど、鈴鹿市や津市でさえが、地上デジタル放送の恩恵を感じない現状を見て、三重県のビジョンに記載すべきでない。</p>	<p>④ ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあって、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p>	個人

48	ビジョン	3	<p>・韓国や台湾の一人当たりのGDPが、日本を上回るのには、デジタル潜在力が高いからという理由では無いし、経済成長のカギとなるDXを進めたからでも無い。ブルシットジョブと呼ばれる、無駄な中間管理職の無駄な査定や無駄な評論を少しずつ排除していったからである。一方日本では、指導層や経営層の激甚高齢化によって、デジタル対応が遅いだけではなく、「何かあったら困る」といった大組織のメンタル問題が重なって、ブルシットジョブが排除されるどころか、増加してしまっている惨状になってしまっている。大企業に限った話ではなく、大組織たる三重県庁でも例外ではない。</p>	③	<p>ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあって、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p>	個人
49	ビジョン	3	<p>・DXの国内市場が10年で3倍超になったのは、中央省庁がありとあらゆる分野にDX絡みのレッテルを張ったからで、純粋な市場がどの程度の規模にあるのかは不明である。三重県においてもオンラインを併用しただけの事業をDXに計上している惨状があり、この記述の存在にはメリットを一切感じない。完全なる全面削除を求める。</p> <p>・IT人材が45万人以上不足するのは、高齢経営層が人材育成に関する経費や時間を、ありとあらゆる分野で、かつ、ありとあらゆる方法で、計上しないよう努めてしまったからで、DXの進展云々以前の問題である。人材不足ではなくて人間不足の段階に既にあり、全ての分野で人間が足りない。</p> <p>・三重県内でデジタルツインが実現することなど一切無い。AI等が分析・予測することによって解決されるはずだった児童虐待は、激甚化や深刻化の一途を辿り何らプラスになることが一切無かった。ヒューマンエラーによる単純な無為や失態の影響のほうが、デジタル導入の影響よりも大きいのである。当然の前提が出来てはじめて奏功するものは、三重県に出来はしない。</p>	④	<p>ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあって、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p>	個人
50	ビジョン	3	<p>・民主主義国家と対立しているのは専制主義国家ではない。専制主義国家に対しての三重県による理解が、拙劣である。専制主義国家は、形式上は民主主義国家の体裁を取っているため、三重県が周辺国を専制主義国家であるように記載することそのものがまさに、我が国の安全保障上のリスクとなる。記載の全面的な見直しを求めるし、そのままにしておくリスクを一切認めない。</p>	③	<p>「民主主義国家と専制主義国家」という言葉は具体的な国を指して定義づけられたものでなく、昨今の米中関係やウクライナ紛争で見られる国家間の対立の構図を示すものとして、報道等で使用されています。ご意見をふまえ、具体的に定義づけられたものでなく、一般的に使用されている言葉であることを明確にするよう記述を工夫します。</p>	個人

51	ビジョン	3		<p>・「急速に落ち込んだが」とあるが、敬体と常体が混在するのは不適當である。</p>	①	統一するようにします。	個人
52	ビジョン	3		<p>・外国人労働者の不足がたったの42万人で済むはずが無い。中央官僚の希望的観測よりもはるかにASEANの伸びが良く、さらに、日本の低成長・超少子が顕著だからである。もっと言えば、外国人への暴行、傷害、パワハラなどが露呈し続けている中、わざわざ殴られる、エアガンで銃撃される日本を選び続ける理由が一切無い。劣悪では無い労働環境を選ぶ、あるいは、一人当たりのGDPが良い国家を選ぶのが、人情として当然ではないか。</p>	③	<p>ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあって、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p>	個人
53	ビジョン	4		<p>・グリーン関係産業が成長することなど日本においては一切無かった。政官財がクールビズをノーネクタイに形骸化してしまい、ウォームビズに至っては、可視化された実施回数がゼロである。新旧三重県知事も例外では無い。上着の着用を正当化し続けるだけの政官財を見て、「所詮は画餅」と思う以外の何の効果があるか。 ・現在の三重県で、県が一番の感染症発症リスクなのだが、何の対応をしたか。</p>	③	<p>ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあって、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p> <p>2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて新エネルギーの導入促進や、環境に配慮した効果的なエネルギー利用の促進が国内外で図られています。本県としてもカーボンニュートラルへの動きをチャンスと捉え、県内の産業振興や地域経済の活性化につながるため、カーボンニュートラルに向けた企業等の積極的な取組を促進することとしています。</p>	個人

54	ビジョン	4		<p>・訪日外国人旅行者数は、他国の社会経済情勢ではなくて、自国の社会経済情勢によって激増する。高度成長の国家から低成長またはマイナス成長の国家に旅行するということは、相対的安価で買い叩けるということであるからだ。</p> <p>・単身者の旅行市場に拡大する見込みなど一切無い。今まで三重県を筆頭とするイクボス自治体が、単身者さえもなぜか「育児世代」と定義し、「育児などの支援」のみに傾倒していたからで、単身者への官製ハラスメントや官製叩きのめしで疲弊した単身者には、旅行する余裕などは一切無い。</p>	<p>③ ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあって、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p> <p>国立社会保障・人口問題研究所の調査によると、2030年に男性の50歳時未婚率が3割に増加すると見込まれており、単身者の増加は旅行市場に大きく影響すると考えています。</p> <p>また、「一人旅」だけに限らず、「知人同士の旅行」なども含め、単身者の旅行市場が拡大する見込みであるということを紹介したものです。ご理解いただきますようお願いいたします。</p>	個人
55	ビジョン	4		<p>・三重県の計画に「生涯未婚率」と二度と書くな。子ども・福祉部の各種計画に合わせて、「50歳時未婚率」に変えよ。</p>	<p>① 子ども・福祉部の計画にあわせて「50歳時未婚率」と修正します。</p>	個人
56	ビジョン	4		<p>・人口が減少している地域で自動運転サービスやドローン等が活用されることは有り得ない。市場規模が狭く、将来性を期待できないから、ビジネスとして成り立ちえないからだ。実装実験を過疎地で行っているから、三重県はこういう建前を入れてくるけれども、実験段階から実用段階に移行する際、業者が丸ごと引き上げられる事態が想定されていない。建前がどうであれ実際にはビジネス上の利益が確保できはしないのだから、大規模な一斉引き上げがあるだろう。</p>	<p>③ ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあって、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p> <p>人口が減少している地域を含めた交通不便地域の解消に向けて、さまざまな主体の参画により地域公共交通に加えて次世代モビリティも活用しながら地域の実情に応じた移動手段の確保に向けた取組の拡大を図ることとしています。</p>	個人

					<p>地域の形状や特性等によりビジネス上の利益が確保できない地域もあることは想定されますが、多くの地域で、現在提供されているサービスのコストを低減させる手段として、また代替する手段として、新たなモビリティが活用されていると想定しています。</p>	
57	ビジョン	4	<p>・本県の人口減少がたったの12.5万人減で済むはずが無い。育児支援政策は人口減少対策では無い。北欧と西欧の出生数を見ればわかることで、子ども・福祉部に「でも第三子が」と誤魔化し続けてきた惨状が続く限り、第一子出生率に壊滅的な数字が出続ける。「でも全国平均が」という誤魔化しもはや意味を為さない。日本全国が地球屈指の超少子であるからだ。市町との連携も人口減少対策では無い。「魅力ある地域がどうのこうの」だのという育児支援に偏在する惨状を見て、それでもまだたったの12.5万人という数字が出せる時点でもう論外である。</p>	<p>④ ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあって、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p> <p>④ 「育児支援政策は人口減少対策ではない」について、出生率の変化は、結婚行動の変化と結婚後の出産行動の変化という2つの要因が大きいと考えられることから、県では、結婚、妊娠・出産、子育て支援をライフステージごとに切れ目なく、総合的に取り組んでまいります。</p> <p>③ 「市町との連携は人口減少対策ではない」について、他県における人口増加の成功例の取組について、県と市町と一緒に研究し、必要に応じ広域的に取り組むなど、市町との連携を強化し、人口減少対策に取り組んでいきたいと考えています。</p>	個人	

58	ビジョン	4		<p>・社会保障に関する給付と負担のアンバランス感が一層強くなるのは、少子高齢化に伴ったものではない。富裕と困窮に対するバランス感覚を国・県・市が欠いているからである。特に三重県は、観光県であると標榜してしまっているため、観光客になれる富裕層には旅行クーポンなどの官製値引き制度の恩恵がいくらでもあり、観光客になれない困窮者にはありとあらゆる無助、水際、置き去り、取り残しが多発してきた。三重県は「ペア旅行券は消費額が多い」という理屈でありとあらゆる分野で単身者を叩きのめしてきた。三重県は日本一のイクボス県であるから、単身者には日本一生きづらいのだ。少子高齢化のスピードが緩まってもアンバランスなままであることに変わりなどありはしない。</p>	<p>③ ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあって、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p> <p>高齢者1人に対して生産年齢人口となる現役世代が何人で支えているかという視点で考えると、高齢者1人を支える現役世代の人数は、1960年では11.2人であったが、少子高齢化により、2020年には2.06人となっています。現状が継続した場合、高齢者と現役世代の人口が1対1に近づき、いわゆる「肩車社会」になることが懸念されています。こうした少子高齢化の進行による「肩車社会」の到来に伴い、医療・介護費を中心に社会保障に関する給付と負担の間のアンバランスは一段と強まると考えています。</p>	個人
59	ビジョン	5		<p>・三重県は、誰もが働きやすい環境の整備や生産性の向上に向けた取組を一切全く何も進めることは無かった。誰もがという名ばかりの看板を掲げ、その実務はというと育児支援である。この惨状で何が「誰もが」なのか。三重県は、「障がいの有無にかかわらず誰もがともに暮らしやすい三重県づくり条例」に真っ向から反旗を翻し、激甚大震災時に避難に支援を要する方を置き去りにするよう動いている有様である。明確に抗議する。</p>	<p>③ ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあって、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p> <p>三重県では多様で柔軟な働き方を推進するため、女性や外国人など求職者への能力開発や、テレワークを活用した働き方改革を促進する取組など、多様な人材が能力を十分発揮できる働きやすい職場環境づくりを進めています。</p>	個人

60	ビジョン	5		<p>・なぜこの箇所に「防災の日常化が急務となっています」と記載されないか。三重県が不十分な対応を重ね、防災意識が拙劣なままであるから、もはや書けない有様であるのか。</p> <p>・災害時の避難行動に支援を要する方の増加を懸念しておきながら、三重県は防災の日常化に逆行している。論外であるため、一刻も早い改善を求める。</p>	<p>③ ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあって、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p> <p>ご意見のとおり、防災が特別なものではなく、日常生活の中に溶け込み、県民の皆さんの災害対応力がいつの間にか養われている状態をめざす「防災の日常化」をふまえた防災・減災対策を進めていくことが重要です。</p> <p>ご指摘の「強靱な美し国ビジョンみえ」の「第1章」においては、「安全・安心等に対するリスクの高まり」の視点から、おおむね10年先(2030年)の三重県を取り巻く状況について記述しているところです。</p> <p>「みえ元気プラン」最終案の施策1-2では、ご意見にあるように、「防災の日常化」をふまえ、県民の皆さんの防災意識が高まり、日ごろから災害への備えが進むよう取り組んでいくことを「2026年度末における到達目標」に掲げ、地域の防災力の向上に取り組んでいくこととしています。</p>	個人
61	ビジョン	5		<p>・三重県内において、カーボンニュートラルに関する積極的な取組が進められているはずが無い。大阪府はポロシャツで、岡山県はワイシャツで、必死に温暖化対策を呼び掛ける中、三重県はと言えばただのノーネクタイをクールビズだと言い張る悲惨な惨状を何度も晒した。新三重県知事が可視化されたウォームビズを行う回数はゼロ回で、三重県知事の出席する会議の会議室の室温は真冬に酷暑である。論外に論外を重ね続ける三重県で、積極的な取組が行われているという冗談が信じるに値するとでも思ったのか。</p> <p>・気候変動に対する「適応」を行おうと思うならば、三重県知事がまずクールビズとウォームビズを可視化された形で行え。現状は論外である。</p>	<p>③ ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあって、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p>	個人

62	ビジョン	5		<p>・脱炭素社会の実現に向けて、県民の行動変容が進むことは有り得ない。三重県庁本庁舎会議室や吉田山会館、合同ビル、勤労者福祉会館などで、真冬でも温度調整をしない。改善要求をしても暖房をいじるだけである。三重県の度重なる暴挙は、感染リスクを只管高めるだけで、論外に論外を重ねる状況で、感染に対する不安のみをバラマキ続けてきた。まず三重県職員が行動変容をすぐにとつと行え。</p>	<p>③ ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあつて、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p>	個人
63	ビジョン	5		<p>・廃棄されるプラスチックの循環的利用の需要は、三重県では拡大しない。三重県民を筆頭に、国内の地方の消費者は、消費行動の際にはひたすら値切りに値切るため、比較的高価となるアップサイクル型の商品を全く一切購入しないからである。三重県職員に至っては数千円の生活必需品さえも、「だって高い」、「安くなったら買う」、「安月給で買えない」と述べる惨状にあり、一切の期待が出来ない。</p>	<p>③ ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあつて、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p> <p>③ 資源の循環的利用については、産業構造の変化や県民の行動変容につながることを重要であると考えています。いただいたご意見については、今後の取組の参考とさせていただきます。</p>	個人

64	ビジョン	5		<p>・自動車の電動化に向けた取組は国内では遅々として進んでいかない。低成長やマイナス成長の国家では消費者がかつて購入した車に乗り続ける以外の選択肢しか取れないからである。国内消費者を徹底的に痛めつけた国・県・市の愚策によるもので、10年程度で回復することなどありえない。</p>	<p>ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。</p> <p>変化が激しい時代にあって、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p> <p>国内の主要自動車メーカーが自動車の電動化に向けた取り組みを強化することを表明している中、この動きに対応できるよう、取り組みを進めることが重要です。このため、ビジョン及びプランにおいて、必要な取り組みが進むよう、検討を進めていきます。</p> <p>「自動車の電動化が進まない」というご意見については、自動車の電動化の推進は、CO2排出削減等の課題をクリアするためだけでなく、新たな分野における経済・産業の成長を期す面においても、非常に重要な取組であると認識しております。</p>	個人
65	ビジョン	5		<p>・社会課題や地域課題を解決する事業者が増加することは、少なくとも三重県内では有り得ない。デジタル社会推進局が只管足を引っ張り続けるからで、事勿れ主義の行政や丸投げの委託事業者が、東京都や愛知県の最大限の利益を最優先で行ってしまうからである。現状として、三重県はただの恥だ。三重県が足を引っ張るのが最大の社会課題である。</p>	<p>④ 社会課題や地域課題の存在は、事業者にとっては新たなビジネスモデル創出のチャンスでもあることから、三重県においてもそれらの課題を解決する事業者が増加すると考えています。</p>	個人

					<p>ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。 変化が激しい時代にあつて、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p>	
66	ビジョン	5~6		<p>・三重県には、地域の個性と豊かさを生かしつつ、都市部と変わらない利便性を兼ね備えた地域が県内でも形成されることなど一切有り得ない。三重県職員が県外の委託事業者に丸投げしてしまう現状では、都市部の利益のために過疎地が活用されるだけで、接待で褒め言葉だけが投げつけられればするけれども、実務上では、首都圏の大学や愛知県の業者の利益にしかかかっていない。</p>	<p>ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。 変化が激しい時代にあつて、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p>	個人
67	ビジョン	6		<p>・行政手続のデジタル化により、必要な情報が必要なタイミングで提供されることなど三重県には無い。かつてさわやかだった頃の三重県と違い、現在は、会議録のPDF送信すら出来ず、前例踏襲を最優先している有様である。よりにもよって三重県がそんな状態である以上、デジタル化の不徹底による不便が横行する。三重県がとつととデジタル化を進めよ。新型コロナによって今までの生活とは一変すると言うだけは言っておいて、ひたすら前例踏襲を行い続ける三重県は単純に恥だ。</p>	<p>ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。 変化が激しい時代にあつて、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p> <p>④ 三重県や県内市町において、行政手続のデジタル化を進めているところであり、その結果として、おおむね10年先には、必要な情報が必要なタイミングで提供されていると考えています。</p>	個人

68	ビジョン	6	<p>・三重県では、県・市町・民間事業者が保有するデータを利活用した政策立案や官民連携による各種サービスが行われていくことなど一切無かった。民間企業が示しているデータを、ずっと見て見ぬふりをし続けてきたのが三重県である。単身者には必要とされるサービスが行われることが一切無く、三重県はひたすら親の支援がどうのこうのだから、育児支援が第三子を増やすだけとか、微増のためのデータばかりを選択し続け、単身者向けのデータについては悉く取捨である。三重県のこんな惨状下でデータ活用など一切期待出来はしない。</p>	<p>③ ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあつて、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p>	個人
69	ビジョン	6	<p>・三重県では、平均宿泊日数の伸び悩みが続くことによって観光消費額が減少していくことが想定されない。三重県は、日帰り観光客の消費額が多い傾向にあつて、これから交通の利便性が向上するなら、その傾向はより顕著なものとなっていく。三重県がデータを直視しないことによる弊害が大きく、日帰り観光客の実態に即した観光誘客がなされないことが問題である。</p> <p>・インバウンド市場や大都市圏への観光誘客を仕掛けないといけないのは、宿泊客の減少によるものではなく、三重県が人口流出県であること、政官財に痛めつけられ国内消費者が消費能力を奪われていることに起因する。原因分析をきちんと行い、その上での記載に努めたらどうか。</p> <p>・旅行者ニーズの多様化があろうがなかろうが、旅行者一人ひとりに合わせた情報発信を行わなければならないが、三重県は今までファミリー層がどうたらこうたらと述べ、単身者の置き去り、取り残し、見て見ぬふりをし続けてきた。方針転換を図るという理解で良いか。</p> <p>・ファミリー層や団体旅行の減少に伴う市場のニーズに対応した変革とやらが、今までの単身者の置き去り、取り残し、叩きのめし、無助の殲滅となることを期待する。</p>	<p>③ ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあつて、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p> <p>また、引き続き、三重県を訪れる観光客の特性にあわせた情報発信や誘客に取り組んでいきます。</p>	個人

70	ビジョン	6	<p>・リニアの戦略的かつ効果的なプロモーションの名のもと、実際にリニアを用いる世代にアプローチせねばならないと三重県が述べてしまったために、亀山市教育委員会の多忙化が加速した。そして、効果的でも戦略的でもない県内駅位置の変更に向け最大限の努力を行え。小規模自治体にはありとあらゆる余力がないということを思い知れ。県内駅位置には一定の人口規模が必要不可欠なことを心の底からわかれ。五万人を下回る現在の県内駅位置には一切合切何もチャンスが無く三重県民の死亡リスクだけがある。</p>	<p>④ ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあって、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p> <p>また、リニア県内駅を核とした地域づくりを進め、リニア中央新幹線の効果を県内に波及するよう取組を進めていきます。</p>	個人
71	ビジョン	6	<p>・三重県では、リニア中央新幹線の開業により、新たな企業立地等に伴う雇用の創出につながるなど無い。リニアが第三鈴鹿亀山道路の供用開始と同時期であれば、現行駅位置のような悲惨な過疎地でも雇用創出が有り得るが、伊勢志摩サミットのマイナスシーリングで、第一鈴鹿亀山道路の供用開始が大幅に後倒しになっている。ここから交通量の分析や経済効果の算出などの過程を経るから、第二鈴鹿亀山道路や第三鈴鹿亀山道路がもう間に合わない。この惨状で企業立地等を強行すると、県内労働者が渋滞で疲弊する一方である。現在の四日市市の惨状を見よ。現在の鈴鹿市の惨状を見よ。国土交通省の渋滞ランキングの常連は四日市市日永で、その国道渋滞に比肩するのが県道鈴鹿環状線である。到着時間の読めない場所が立地に値しないことぐらい理解せよ。地域間競争の激甚化に耐えうる程度の県道整備と渋滞解消が全くなされていない現状を理解せよ。</p>	<p>③ ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあって、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p> <p>② 地域の経済活動の活性化、都市部の慢性的な渋滞の緩和に向け、施策10-11において鈴鹿亀山道路をはじめとする高規格道路や直轄国道、これらと一体となった県管理道路の整備推進に取り組んでまいります。</p>	個人

72	ビジョ ン	7		<p>・三重県が、三重県内の健康寿命を男女別で記載するたび、前三重県知事の「男性は運動とか頑張ってくださいね」などというデータに基づかない三重県の暴言が想起されてしまうから、遺族本人として極めて強く明確に三重県に抗議する。健康づくりの重要性を述べる際に、男性の名誉毀損を含める必要など一切無い。遺族本人その人として何が何でも三重県に対して絶対に極めて強く抗議する。</p>	<p>④ ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあって、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。また、健康寿命や平均寿命は、科学的なデータに基づき、男女により傾向が異なることから、基礎的情報として把握し、記載しています。</p>	個人
73	ビジョ ン	8		<p>・三重県における教育が、家庭や地域との連携・協働のもと進められることなど無い。既存団体で完遂してしまうため、地域の意欲ある事業者の新規参入を悉く妨害するからである。現在の惨状は一体何か。</p> <p>・三重県に置いて深刻な虐待事案は減少しない。マイクロ・アグレッションと呼ばれる微細な攻撃の積み重ねが弱者に向き、その結果、自殺や虐待に繋がる。</p> <p>・「新たに支援等が必要とされる事案」と三重県が定義するのは「新たに」では無い。制度の変更前から支援すべき事案であるのに、国の動向云々で制度改変が為されるまでは待機し、支援の出し渋りをしていく三重県に問題がある。</p>	<p>④ ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあって、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。また、多様な他者と協働し、社会の担い手となる力を育む教育に取り組みます。また、すべての子どもが健やかに、夢と希望を持って育つことができるよう、取り組んでいきます。</p>	個人

74	ビジョン	8		<p>・「南北の主要幹線ネットワークが大幅に延伸・強化される一方で」と三重県が述べるならば、もう一方は「東西の主要幹線が脆弱なままであること」であろう。特に鈴鹿市の東西を繋ぐ道路は県道である。鈴鹿市の東西に係る移動に困難が生じているのは、全て三重県に責任がある。鈴鹿市は三重県に対し要求し続けているにもかかわらず、三重県は伊勢志摩サミットによるマイナスシーリングによって鈴鹿市の要求を後倒しに続けてきた。今後はリニアの啓発に係る予算の偏在により、第二鈴鹿亀山道路が後倒しになるだろうと容易に推測でき、南北の主要幹線の延伸・強化の影響が限定的なものとなってしまうだろう。</p>	<p>③ ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあって、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p> <p>② 主要幹線ネットワークの延伸・強化をめざし、施策10-1において東西軸となる鈴鹿亀山道路をはじめとする高規格道路や直轄国道、これらと一体となった県管理道路の整備推進に取り組んでまいります。</p>	個人
75	ビジョン	8		<p>・四日市港については、三重県のせいで利便性の向上が限定的なものとなる。現状としてこんなにも産業交通と生活交通の混在があり、渋滞解消に遅滞があり、ちょっとした移動にさえ苦痛がある状況で、なぜ東西軸や交差点についての記載さえ出来ないか。</p>	<p>③ ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあって、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p> <p>② 地域の経済活動の活性化、都市部の慢性的な渋滞の緩和に向け、施策10-1において鈴鹿亀山道路をはじめとする高規格道路や直轄国道、これらと一体となった県管理道路の整備推進に取り組んでまいります。</p>	個人

76	ビジョン	8		<p>・リニアによる首都圏と三重県のアクセス利便性は限定的。三重県における現在の惨状はリニアに拘泥するデメリットがあまりにも大きい。リニアに関する記載は全面的かつ抜本的な見直しを求める。</p> <p>・「スーパー・メガリージョンの形成による交流の活性化や新たなビジネススタイル・ライフスタイルの創出に向けた検討」が、将来世代云々という理屈で、三重県教育委員会などの教育関係者の負担となる。実務の抜本的改善を求める。</p>	<p>④ ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあって、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p> <p>また、リニア中央新幹線の開業による人流の拡大を雇用創出につなげられるよう取り組んでいきます。</p>	個人
77	ビジョン	8		<p>・三重県内では、人権やダイバーシティ&インクルージョンに対する社会的関心は高まることは無い。三重県がダイバーシティ社会の推進を育児支援に変質させるからである。三重県では、年齢、性別、障がいの有無、国籍によって官製差別ばかりが行われる。三重県は育児と両立し易いことのみが強調され続ける、単身者にとっては日本一生きづらい。妻帯者や経産婦にだけは希望を与え、単身者には無助、攻撃、叩きのめしだけがある。</p>	<p>④ ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあって、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p> <p>また、三重県を取り巻く状況として、人権やダイバーシティ&インクルージョンに対する社会的関心は高まっているとらえており、性別、年齢、障がいの有無、国籍・文化的背景、性的指向・性自認などに関わらず、誰もが参画・活躍できる社会づくりは重要であると考えています。</p>	個人

78	ビジョ ン	8		<p>・性別にかかわらずと述べていながら、その直後に女性活躍を述べる三重県に何の希望があるか。女性の家事・育児関連時間についてだけを述べる三重県で未婚女性に何の希望があるのか。</p>	<p>④ ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあって、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p> <p>また、三重県を取り巻く状況の一つとして、企業における女性役員数の少なさや家事・育児関連時間の男女差などがあることをふまえ、その是正に向けて取り組んでいきます。</p>	個人
79	ビジョ ン	8		<p>・単身世帯高齢者、ひとり親家庭、ひきこもりなどの増加が懸念されるのは、国・県・市が、必要な支援が行き届かないようにして、孤立させているからである。特に三重県では、全国初の特化計画をつくったと自画自賛に走るだけで、その実態は不登校等総合計画へと変貌させてしまっている。官製無助の問題が極めて大きい。官製孤立であることを反省し、実務上の遅滞を解消するよう、かつ、こんなに不健全な特化計画を即時改訂するよう、努めたらどうなのか。</p>	<p>④ ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。変化が激しい時代にあって、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p> <p>⑤ 令和4年3月に策定した「三重県ひきこもり支援推進計画」では、支援対象者を「おおむね15歳以上(中学校卒業後)のひきこもり状態にある方およびその家族であって、支援を必要とする方(支援が必要になると予想される方)」と位置付け、不登校等により学校との関わりが希薄となり、社会的自立が困難な状況でひきこもり状態につながるものが懸念される方も含めています。</p> <p>本計画に基づき、誰もが社会から孤立することなく、多様な生き方を選択し、希望をもって安心して暮らせる社会をめざし、関係機関や民間支援団体等と連携し、ひきこもり支援にしっかり取り組んでまいります。</p>	個人

80	ビジョン	9	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県内の、特に若年層ではスポーツ人口が減少するのは、部活動におけるいじめの殲滅を全面的に打ち出さない、打ち出せないからである。心身の健全な成長に一切の期待が出来ない。この部分の記載の全面的かつ抜本的な見直しと改善を求める。 ・三重県は、スポーツの持つ力に大きな期待が高まっているとしていながら、この箇所には、競技施設近隣の渋滞解消についての記載が無い。縦割り行政の典型的なところで、このような縦割り行政が続いている以上、何も期待できない。 	④	<p>ご指摘いただいた記述は、おおむね10年先の国際・国内情勢を想定して記載しています。</p> <p>変化が激しい時代にあって、正確に10年後を見通すことは大変難しいと感じています。しかしながら、変化が激しい時代だからこそ、将来を展望し、予測される状況に対して柔軟にかつ的確に対応していく必要があります。今回お示した内容については、さまざまな統計データや国の資料などを参考にしながら県庁内で議論してまとめたものであり、引き続き、有識者など外部の方の意見も聴きながら、精査していきます。</p> <p>また、スポーツの持つ力を本県の発展につなげられるよう、ビジョン及びプランの中に記載していきます。</p>	個人
81	ビジョン	11	<ul style="list-style-type: none"> ・「今後、将来世代を含め、県民の皆さんが三重に愛着を持ち笑顔で明るく暮らすことができるよう、新しい三重づくりに取り組んでいきます」というのは、純然たる画餅である。それでもリニアや関西万博をチャンスとして、と述べる三重県に何の魅力があるか。 	④	<p>リニア中央新幹線の県内駅設置や大阪・関西万博など、本県の発展につながる機会を逃さないよう取組を進めていきます。</p>	個人
82	ビジョン	11～12	<ul style="list-style-type: none"> ・各種対応について、体言止めとするのが行政機関としては適切でない。推進や支援をどうするのが不明確なままで、言葉が濁され続けるからである。「推進の検討はしました」で実務が終わってしまう可能性が危惧される。ゆえに、必ず述語で終わるよう、記載を改善するようになりたい。 	①	<p>いただいたご意見を参考にしながら、より分かりやすい表記となるよう努めます。</p>	個人
83	ビジョン	12～14	<ul style="list-style-type: none"> ・立地環境の向上は、高速道路網の整備の進展のみによっては為されない。生活交通の改善が付随してやっと産業交通と生活交通の混在解消と渋滞解消が伴うものだ。三重県内は、県道整備に遅滞があり、現状は立地環境として劣悪である。三重県のビジョンにおける記載では、「高速道路網、及び、そのアクセス道路」と明記するよう改善されたい。 	①	<p>ご意見のとおり、アクセス道路を含めた表現として、高速道路路路網を「道路網」と修正します。</p>	個人
84	ビジョン	12～14	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもや女性、高齢者など誰もが住み続けたいと思う地域にしていきます」と「人権が尊重され、性別、年齢、障がいの有無、国籍等に関わらず誰もが参画・活躍できるよう環境づくりを進める必要があります」が併記されている時点で、「など扱い」を受ける人間の人権が尊重されていない。 	①	<p>ビジョン及びプランに記載する文言については、不適切な表現がないよう引き続き注意していきます。</p>	個人

85	ビジョン	13		<p>・「リニアの県内駅を核とした地域づくりを進めることで、三重県が飛躍的に発展していく可能性」は無い。国土交通省の出した「国土のグランドデザイン2050」によれば、数万人程度の過疎地では、県内駅近隣の商業施設に期待が出来ないからだ。県内駅の経済効果算出の際に、隣接する市の人口を含み入れても良い状況というのは、現在の渋滞解消が完全に為されていればという、タラレバの話である。そして、渋滞解消は、前三重県知事のマイナスシーリングにより、もはや間に合うことなどはないのだ。ゆえに、「今後、どのように取り組んでいくべきか」は既に決まっていて、県内駅位置の変更以外には無い。人口集積地への変更を求める。</p>	④	<p>県内駅候補地については、様々な主体と連携しながら検討を進めます。</p>	個人
86	ビジョン	15		<p>・この箇所が画餅とならないよう、防災の日常化とウォームビズの徹底を、三重県知事を筆頭として、全庁挙げて行ってほしい。災害時において、靴が避難リスクとならないように、服が凍死リスクとならないように、全部局で取り組むべきであるのだ。</p>	③	<p>ご意見のとおり、防災が特別なものではなく、日常生活の中に溶け込み、県民の皆さんの災害対応力がいつの間にか養われている状態をめざす「防災の日常化」をふまえた防災・減災対策を進めていくことが重要です。いただいたご意見も参考にしながら、「防災の日常化」を図るための取組を進めてまいります。</p>	個人
87	ビジョン	17		<p>・「妊娠・出産から育児に至るまで切れ目のない支援」では、人口減少対策元年以降の計画に相応しくはない。人口減少の主たる要因は、未婚率の激甚上昇にあるからだ。三重県が、本気で人口減少に取り組む気があるならば、「婚姻から」となるべきで、安易な前例踏襲を続けてはならない。</p>	①	<p>ご意見をふまえ、次のとおり修文します。 「結婚・妊娠・出産・子育ての希望がかなうよう、結婚を希望する方に対し、丁寧な相談対応や情報発信等をするとともに、妊娠・出産から育児に至るまで切れ目のない支援を行います。また、(以下、原文に同じ)」</p>	個人
88	ビジョン	17		<p>・スポーツを通じて夢と希望を略奪し、地域の愛着や誇りを奪うような事態は何としてでも避けなければならない。現状では何もかもを三重県の一部組織に丸投げしてしまっているから、三重県のスポーツに夢と希望は無い。</p>	④	<p>スポーツの持つ力を本県の発展につなげられるよう、ビジョン及びプランの中に記載していきます。</p>	個人
89	ビジョン	18		<p>・「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づく取組が、十分な成果につながったとは言えないと、三重県が正直に記載することを評価する。今までの取組は只管育児支援を中心としてきたから第三子微増にしかならなかった。一方で第一子減少に対する取組とはならなかった。新三重県知事が前三重県知事の踏襲を断固拒否することを期待している。</p>	③	<p>人口減少対策は、一朝一夕で解決できない構造的な問題ですが、人口減少の実態を把握し、エビデンスに基づいて、より効果的な取組に全庁を挙げて強力に取り組んでいきたいと考えています。</p>	個人

90	ビジョン	18	<p>・「県民の声に耳を傾け」というくだりが、半年ずっと画餅のままであったことを猛省され、改善されたい。三重県戦略企画部秘書課や三重県戦略企画部広聴広報課が「課内で検討します」に留めることを今すぐにやめられたい。</p> <p>・三重県は今までずっと、「ご意見を公表することで、個人または法人の権利、競争上の地位その他正当な利益が害されるおそれがあるものについては、その全部又は一部を削除します。」だの、「ご意見の中に含まれる誹謗・中傷等及び差別的あるいは差別を助長するおそれのある表現については、置き換え、言い換え等の加筆、修正や削除を行います。」だのと、建前の悪用ばかりを続けてきた。今度こそは「県民の声に耳を傾け」に恥じないように、実務を進めていくようにされたい。</p>	④	<p>・県民の皆さんからのお問い合わせに関しまして、まずは担当課において対応を検討することとなります。</p> <p>・パブリックコメントの実施にあたっては、個人または法人等の権利の侵害、誹謗・中傷及び差別等につながる表現について、配慮をすることが必要であると考えます。</p>	個人
91	プラン全般		<p>・行政機関の計画として、体言止めを全てやめてもらいたい。推進をどうしていきたいのか、影響をどうしていきたいのか、三重県による指針・計画としての主体性が見られない。県内外の民間が推進していくのに合わせるのか、県内企業が推進していくのを三重県として推奨していくのか、三重県が主体として推進するのか、影響に合わせるのか、影響があるために防止していくのか、認識しているから推進するのか、認識しているから防止するのか、認識せざるを得ない状況下にあると認識しているのか、そういった部分を不明瞭なままで記載していく意味、意義、長所が存在しない。</p>	③	<p>いただいたご意見を参考にしながら、より分かりやすい表記となるよう努めます。</p>	個人
92	ビジョン	6	<p>県管理港湾および四日市港において、港の賑わい・交流の拡大に向けた取組が進められている旨の内容の記載が必要と考えます。</p>	①	<p>該当の箇所では県管理港湾についての記述であることから、ご指摘の点を施策7-3の四日市港の項目に追記します。</p>	市町
93	プラン	2	<p>四日市港について、P6~7(5)脱炭素社会への対応において「カーボンニュートラルポート形成計画に沿った取組を進めます。」とカーボンニュートラルについては記載がありますが、観光・レジャーを通じた交流人口の拡大を図るための取組については記載がありません。第1章「みえ元気プランでめざす三重県」においても、港の交流人口の増加に向けた内容について「2026年の展望」「めざす姿と取組方向」に記載すべきと考えます。</p>	①	<p>該当の箇所では県管理港湾についての記述であることから、ご指摘の点を施策7-3の四日市港の項目に追記します。</p>	市町

94	プラン	2		<p>コロナ終息後には、コロナ前まで好調であったインバウンド市場の活況が再来することが予想されます。それに合わせ、外国クルーズ船の日本寄港も再度拡大していくものと考えられます。三重県としても外国クルーズ船に対する誘致活動並びに受入態勢の整備に積極的に取り組む旨、記載すべきと考えます。</p>	<p>① クルーズ船の寄港は地域経済を活性化させるだけでなく、地域の評価・知名度を向上させ、その地域への旅行者のリピーターを獲得する重要な機会であることから、新型コロナウイルス感染症収束後の外国船籍の寄港再開を見据え、三重県クルーズ振興連携協議会を通じて各寄港地の協議会等と連携し、乗船客の県内各地への誘客を促進する取組や寄港地の魅力を発信する取組を行う必要があると考えています。</p> <p>また、施策5-1「取組方向」を修正します。それに合わせて第1章の記述も修正します。</p> <p>なお、クルーズ船の受入整備については、四日市港の戦略計画に沿って取組を行っています。</p>	市町
95	プラン	16		<p>P2(上記)同様、外国クルーズ船に関する記載をすべきと考えます。</p>	<p>① クルーズ船の寄港は地域経済を活性化させるだけでなく、地域の評価・知名度を向上させ、その地域への旅行者のリピーターを獲得する重要な機会であることから、新型コロナウイルス感染症収束後の外国船籍の寄港再開を見据え、三重県クルーズ振興連携協議会を通じて各寄港地の協議会等と連携し、乗船客の県内各地への誘客を促進する取組や寄港地の魅力を発信する取組を行う必要があると考えています。</p> <p>また、施策5-1「取組方向」を修正します。それに合わせて第1章の記述も修正します。</p> <p>なお、クルーズ船の受入整備については、四日市港の戦略計画に沿って取組を行っています。</p>	市町
96	プラン	47	観光産業の振興	<p>インバウンドマーケットとして大阪・関西万博を捉えるだけでなく、四日市港への大型外国クルーズ船の誘致活動や客船を受け入れる港の整備についても取組が必要と考えます。</p>	<p>① クルーズ船の寄港は地域経済を活性化させるだけでなく、地域の評価・知名度を向上させ、その地域への旅行者のリピーターを獲得する重要な機会であることから、新型コロナウイルス感染症収束後の外国船籍の寄港再開を見据え、三重県クルーズ振興連携協議会を通じて各寄港地の協議会等と連携し、乗船客の県内各地への誘客を促進する取組や寄港地の魅力を発信する取組を行う必要があると考えています。</p> <p>また、施策5-1「取組方向」を修正します。</p> <p>なお、クルーズ船の受入整備については、四日市港の戦略計画に沿って取組を行っています。</p>	市町

97	プラン	57	ものづくり産業の振興	「汎用的な化学製品の供給を通じて、戦後の我が国経済の発展と地域の雇用を支えてきました」と記載されているが、汎用品から高度部材へと既に転換されており、その点を踏まえた記載とした方が良いのではないのでしょうか。	①	ご意見いただいた箇所は、「2026年を見据えた現状と課題」の認識を記載した部分の一部ですが、ご指摘を踏まえて、「四日市コンビナートは、汎用的な化学製品から高機能素材等に至る様々な製品の供給を通じて、我が国経済の発展と地域の雇用を支えてきました」を最終案としたいと思います。	市町
98	プラン	68	道路・港湾整備の推進	県管理港湾については「地域産品の輸送や、観光・レジャーを通じた交流人口の拡大など、地域が元気になる取組を支援する必要があります。」と記載されていますが、四日市港についての記載がありません。四日市港についても同様に取組が必要と考えます。 あわせて、四日市港については、産業界が中心となって、四日市港のあるべき姿として「みなとまちづくりプラン」を策定し、交流と賑わいの創出等の取組を進めていくこととなっています。このことから、「取組方向」にも交流人口の増加に向けた内容を記載すべきと考えます。	①	該当の箇所では県管理港湾について記載されていますが、ご指摘の四日市港の賑わいづくりについては、施策7-3の四日市港の項目に四日市地区の新たな利活用として港の資源を活かした取組を促進していくことを追加します。	市町
99	ビジョン	9		「文化・芸術」は「地域の歴史・文化」が適切と思われれます。	①	「歴史・文化」について、その対象を明確化するため、ビジョンの記載を変更しました。	市町
100	ビジョン	17		「文化芸術」という言葉で芸術性の高い文化と、地域固有の歴史文化の両方を表そうとしているため違和感があり分かりづらいです。 一つ目の「文化芸術」は、「地域の歴史文化」などとしたほうが良いと考えます。 また、地域の愛着や誇りを高めるには、スポーツ・文化芸術ともに取り組みが必要と考えます。	②	文化芸術基本法に準じ、「文化芸術」を、音楽、美術などの「芸術」や伝統芸能、生活文化、文化財など、幅広い範囲でとらえています。また、文化芸術の振興施策を推進するにあたり、関連する分野とも連携しながら取り組みます。	市町
101	プラン	12		「文化芸術を担い継承する人材の…」とあるが、「継承する」ということばは、地域の文化を指すときに使った方がしっくりするので、「文化芸術を担う人材」が良いと考えます。 そもそも、地域の文化を衰退させないために文化財保存活用大綱を策定されたのではないのでしょうか。	②	文化芸術基本法に準じ、「文化芸術」を、音楽、美術などの「芸術」や伝統芸能、生活文化、文化財など、幅広い範囲でとらえています。こうしたことから、「文化芸術を担い継承する人材」としました。	市町
102	プラン	13		「文化芸術」は「地域の文化」が適切と思われれます。	③	文化芸術基本法に準じ、「文化芸術」を、音楽、美術などの「芸術」や伝統芸能、生活文化、文化財など、幅広い範囲でとらえています。こうしたことから、「文化芸術」の表記としています。	市町

103	プラン	93	文化と生涯学習の振興	ビジョンのP17と同様に、すべて「文化芸術」とまとめずに、すぐれた芸術活動と、市民・県民による文化活動・地域の歴史文化の保存継承活動を分けて表現するのが良いと考えます。	②	文化芸術基本法に準じ、「文化芸術」を、音楽、美術などの「芸術」や伝統芸能、生活文化、文化財など、幅広い範囲でとらえています。こうしたことから、「文化芸術」の表記としています。	市町
104	ビジョン	6		プランに合わせ、見出しを「ものづくり産業・中小企業の振興」とすべきと考えます。	①	いただいたご指摘なども踏まえ、ビジョン・プラン全体の表記の統一に努めます。	団体等
105	プラン	2		コロナ終息後には、コロナ前まで好調であったインバウンド市場の活況が再来することが予想されます。それに合わせ、外国クルーズ船の日本寄港も再度拡大していくものと考えられます。三重県としても外国クルーズ船に対する誘致活動や受入体制の整備に積極的に取り組む旨、記載すべきと考えます。	①	クルーズ船の寄港は地域経済を活性化させるだけでなく、地域の評価・知名度を向上させ、その地域への旅行者のリピーターを獲得する重要な機会であることから、新型コロナウイルス感染症収束後の外国船籍の寄港再開を見据え、三重県クルーズ振興連携協議会を通じて各寄港地の協議会等と連携し、乗船客の県内各地への誘客を促進する取組や寄港地の魅力を発信する取組を行う必要があると考えています。 また、施策5-1「取組方向」を修正します。それに合わせて第1章の記述も修正します。 なお、クルーズ船の受入整備については、四日市港の戦略計画に沿って取組を行っています。	団体等
106	プラン	16		P2(上記)同様、外国クルーズ船に関する記載をすべきと考えます。	①	クルーズ船の寄港は地域経済を活性化させるだけでなく、地域の評価・知名度を向上させ、その地域への旅行者のリピーターを獲得する重要な機会であることから、新型コロナウイルス感染症収束後の外国船籍の寄港再開を見据え、三重県クルーズ振興連携協議会を通じて各寄港地の協議会等と連携し、乗船客の県内各地への誘客を促進する取組や寄港地の魅力を発信する取組を行う必要があると考えています。 また、施策5-1「取組方向」を修正します。それに合わせて第1章の記述も修正します。 なお、クルーズ船の受入整備については、四日市港の戦略計画に沿って取組を行っています。	団体等

107	プラン	47	観光産業の振興	四日市港への大型外国クルーズ船の誘致活動や受入体制の整備に積極的に取り組む旨、記載すべきと考えます。	①	クルーズ船の寄港は地域経済を活性化させるだけでなく、地域の評価・知名度を向上させ、その地域への旅行者のリピーターを獲得する重要な機会であることから、新型コロナウイルス感染症収束後の外国船籍の寄港再開を見据え、三重県クルーズ振興連携協議会を通じて各寄港地の協議会等と連携し、乗船客の県内各地への誘客を促進する取組や寄港地の魅力を発信する取組を行う必要があると考えています。 また、施策5-1「取組方向」を修正します。それに合わせて第1章の記述も修正します。	団体等
108	プラン	10		四日市港四日市地区の岸壁等港湾施設の老朽化が進み、港湾施設が使用できず、本来の港湾機能が低下しています。道路のみならず港湾(四日市港)についても、施設改良や機能転換による再生に向けた取り組みが必要であり、その旨記載すべきと考えます。	④	整備については、四日市港の戦略計画に沿って取組を行っています。	団体等
109	プラン	68	道路・港湾整備の推進(現状と課題)	2つ目■の記載と同様に、港(四日市港)のことも記載すべきと考えます。四日市港では、老朽化が進む四日市地区の再生を目的に、昨年11月に「四日市みなとまちづくりプラン(基本構想)」を取りまとめています。同プランに基づき、港の交流・賑わいづくりに向けた取組に加え、県内観光地と世界を結ぶ旅のゲートウェイとしての港づくりに向けた取組が進められていることから、そうした記載が必要と考えます。 (4つ目■の最後の記載は上記に含めて、しっかり記載すべきと考えます。)	①	該当の箇所では県管理港湾について記載されていますが、ご指摘の四日市港の賑わいづくりについては、施策7-3の四日市港の項目に四日市地区の新たな利活用として港の資源を活かした取組を促進していくことを追加します。	団体等
110	プラン	68	道路・港湾整備の推進(取組方向)	2つ目■の記載の1行目から2行目に「インターアクセス道路」を追記すべきと考えます。 「、、、道路ネットワークの強化や、インターアクセス道路、第二次緊急輸送道路等の整備、、、」と記載すべきと考えます。	②	「インターアクセス道路」については重要と認識していますが、高規格道路等の主要幹線を補完する道路ネットワークに「インターアクセス道路」を含めた表現として記載しています。	団体等
111	プラン	69	道路・港湾整備の推進(取組方向)	5つ目■ 上記を踏まえ、「このため、老朽化が進む、、、」の記載に、「機能転換(物流から交流、観光ゲートウェイ等)」を追記すべきと考えます。	④	施策11-1では三重県が管理する港湾について記載を行っています。	団体等

112	プラン	61	若者の就労支援・県内定着促進 (現状と課題)	ものづくり産業を支える人材を育成する大学が県内には少なく、地域のものづくり企業の人材確保は大変困難な状況にあるため、そうした現状、課題を記載すべきと考えます。	③ 本県では、若者の県外流出が課題となっており、進学と就職がその契機であると推測されます。このため、学びの選択肢拡大や若者の県内定着、地域産業を支える人材の確保に向け県立大学の設置について検討を行っており、ご意見はその参考とさせていただきます。 また、県内には、中小企業を中心としたものづくり産業が多く、生産年齢人口の減少や従事者の高齢化など、取り巻く環境は変化しており、ものづくり産業の人材確保は大変困難な状況です。そのため、県では、求人ニーズが高いものづくり分野への就労を目指したコースを津高等技術学校に設置するなど、職業訓練として地域産業の担い手となる若年技術者の育成に取り組んでいます。今後も引き続き、みえ元気プラン等にもとづき、関係機関と連携して、ものづくり産業等の人材確保に取り組んでいきます。	団体等
113	プラン	61	若者の就労支援・県内定着促進 (取組方向)	ものづくり産業を支える人材育成のため、関連学部・学科を持つ大学等の誘致を記載すべきと考えます。	③ 本県の大学進学者収容力は、全国的に見ても低位にあり、学びの選択肢の拡大が求められているところです。大学誘致に関し、情報収集に努めます。	団体等

114	ビジョン・プラン全般		<p>「みえ県民カビジョン第3次行動計画」の第3編に記載のあった「地方創生」について、今回の「強靱な美し国ビジョン」「みえ元気プラン」ではどのように位置づけられるのか。</p> <p>また、南北に細長い県土を有する三重県は、多様性に富んだ地域資源を有しており、それぞれが抱える地域課題も様々であるので、三重の強みや良さを生かし、地域課題の解決を図るには、政策・施策といった分野による体系化だけでなく、エリアごとの記載も必要ではないか。</p>	<p>人口減少に関する課題に取り組み、地域の自立的かつ持続的な活性化を実現する地方創生には、今回のビジョンおよびプランでも引き続きしっかりと取り組んでいくこととしています。ビジョンおよびプランには「地方創生を実現する」という文言を使っていますが、よりわかりやすく課題を明確にするため「人口減少対策」として取り組むこととしています。</p> <p>③ なお、人口減少対策の取組は、プランの「7つの挑戦」に記載します。また、現在改めて人口減少に係る調査・分析を進めているところであり、より効果的な対策を検討し、取りまとめたうえ、別途策定する「三重県人口減少対策方針（仮称）」においてお示ししたいと考えています。</p> <p>また、ご指摘のとおり、県内の各地域の多様性に富んだ地域資源を生かしていくことが大切だと認識しており、今回のビジョンの第2章第3節基本理念の中で、三重県を「北中部地域」と「南部地域」の2つととらえて、それぞれの強みや良さを生かして「選ばれる地域」にしていくこととしています。</p>	市町
115	ビジョン	8	<p>中勢バイパス、新宮紀宝道路、東海環状自動車道の記述はあるが、県土発展に資することが期待される「名神名阪連絡道路」も記述されたい。</p> <p>(記載内容) 中勢バイパス全線開通(令和5年度)や新宮紀宝道路開通(令和6年度)、東海環状自動車道の全線開通(令和8年度)など南北の主要幹線ネットワークが大幅に延伸・強化されることに加え、名新名阪連絡道路の整備が今後予定される一方で、高度経済成長期以降に整備され、建設後50年を経過する道路橋が6割を超えるなどインフラの深刻な老朽化が進んでいます。</p>	<p>② 代表として開通見通しが出されている高規格道路等を記載しています。名神名阪連絡道路につきましては、施策11-1において事業化に向けた取組を進めてまいります。</p>	市町

116	ビジョン	10		<p>・「伊勢の国は」を「その大部分を占める伊勢の国は」に改められたい。</p> <p>・「中京圏の一翼を担う北中部地域」に加え「伊賀地域」に係る記述をされたい。</p>	<p>③ ・日本書紀の記述について述べたものであり、概要案の記述のままとする予定です。</p> <p>① ・ビジョン及びプランに記載する「北中部地域」は、伊賀地域(伊賀市及び名張市)も含めた地域として記述しているため、「中京圏の一翼を担う北中部地域」には伊賀地域も含まれています。注釈で「北中部地域」に含まれる地域がわかるように記載します。</p>	市町
117	プラン全般			<p>・10年先を見据えた場合、広域自治体としての県の役割が大きく変わっていくものと考え。当然、市町との関係も変わっていくべきと考えるが、新プランにはその視点での記述がないように思うが如何か。</p> <p>・地域づくりの政策に、南部地域、東紀州地域の活性化が記述されているが、府県境の市町(木曾岬町、桑名市、いなべ市、菰野町、亀山市、伊賀市、名張市等)への振興策や関係府県との連携策等も広域自治体として県の役割と考えるが如何か。</p> <p>・SDGsの視点から、全体として、だれ一人として取り残されない、地域共生社会の実現に、県が一生懸命取り組んでいくという決意を表明されたい。</p>	<p>③ 県と市町は対等・協力の関係の下、平成の大合併や権限移譲の進展等を経て、県は近隣府県との連携も含めた県域全体で、市町は自分たちの市町または複数市町からなる地域で、ともに連携して地域課題の解決に取り組んできました。</p> <p>こうした対等・協力の関係を前提として、今後も県と市町はさらに連携を深め、よりよい三重県を創っていくことが大切であり、今回のビジョンにおいても、「第4章県政運営にあたっての基本姿勢」において、市町を含めた多様な連携により進める県政について記述を行っているところです。</p> <p>今回、新型コロナの対応について、都道府県と市町村の情報共有が必ずしもうまくいっていないなど、県と市町の役割分担について課題が明らかとなりました。現在、総務省の地方制度調査会において、社会全体におけるDXの進展および新型コロナウイルス感染症対応で直面した課題等をふまえ、国と地方に加え、地方公共団体相互間の関係に必要な地方制度の在り方が調査・審議されています。こうした</p>	市町

					<p>議論の状況も注視しながら、三重県と市町との連携についてよりふさわしい関係を構築していきたいと考えています。また、新たに顕在化する課題の中には、府県境ならではのものも考えられますので、関係する市町と連携し、県民の皆さんと共に取り組んでいきます。</p> <p>SDGsの理念は、県が取組を進めるにあたってこれまでも大切にしてきた視点で、今回のビジョン・プランでも大切なものです。ビジョンの第2章第3節基本理念の中でも記述しています。最終案では、SDGsの理念を県政運営でも大切にしていくことがわかるよう、記述を検討していきます。</p> <p>今後、人口減少や高齢化の進展などにより、社会が大きく変化し、自治体において新たな課題の顕在化も予想されます。社会の変化に合わせて自治体の役割や自治体間の関係の変化も考えられるため、引き続き地域の課題解決のため、③ 県と市町の連携を一層強化して取り組んでいきます。</p> <p>また、新たに顕在化する課題の中には、府県境ならではのものも考えられますので、関係する市町と連携し、県民の皆様とともに取り組んでいきます。</p>	
118	プラン	15		<p>[取組方向] 新型コロナウイルス感染症等への対応において、三重県の地理的特性から人的交流が深い愛知県、岐阜県等中部圏との連携に加え、京阪神圏域とも同様に連携を取ることが感染対策上不可欠であり、その旨を記述されたい。</p>	<p>③ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策については、中部圏や近畿圏の自治体等と連携して取り組んでいることから、プランにおいても、その旨記載をするよう修正を検討します。</p>	市町
119	プラン	33	感染症対策の推進 (現状と課題)	上記に同じ	<p>③ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策については、中部圏や近畿圏の自治体等と連携して取り組んでいることから、プランにおいても、その旨記載をするよう修正を検討します。</p>	市町

120	プラン	59	企業誘致の推進と県内再投資の促進(現状と課題)	<p>「北勢地域を中心に県内への企業立地ニーズは高い」に加え「伊賀地域」の記述を加えられたい。</p> <p>(記載内容)※下線:修正希望箇所 道路網の整備効果等により、北勢地域を中心に県内への企業立地ニーズは高いことに加え、<u>関西企業の受け皿の伊賀地域</u>についても、既存工業団地等の分譲可能用地が減少し、将来的にも用地不足による誘致機会の逸失が懸念されることから、新たな産業用地の確保が喫緊の課題となっています。また、国内外の地域間における比較・競合が厳しくなる中、操業環境の優位性を保つため、ソフト面での支援の重要性も高まっています。</p>	③	<p>産業用地の不足については、北勢地域だけではなく、伊賀地域及び中勢地域においても同様と考えています。このため、産業用地の確保については北勢地域を中心に、企業ニーズのある伊賀地域や中勢地域についても進める必要があるものと考えています。</p>	市町
121	プラン	59	企業誘致の推進と県内再投資の促進(取組方向)	<p>伊賀地域の記述を加えられたい。</p> <p>(記載内容)※下線:修正希望箇所 ■ 企業投資促進制度の活用やワンストップサービスの提供などにより、グリーン・デジタル関連、食関連など成長産業分野への投資や、マザー工場化、スマート工場化、研究開発施設など高付加価値化や生産性の向上につながる投資を促進します。また、サービス産業や県南部地域における地域資源を活用した産業、中小企業・小規模企業の高付加価値化につながる投資を促進します。さらに、本社機能の移転・強化や外資系企業の誘致、<u>デジタル社会実現のためのインフラ整備</u>等にも、国の施策等と連携しながら積極的に取り組みます。 ■ 産業用地の確保に向けて、<u>官民連携の面からも新たな候補地を開拓するための適地調査</u>を行い、市町や民間事業者に情報を提供することにより、新たな産業用地の整備を促進するとともに、計画中の産業用地開発に係る手続き円滑化や工場跡地等の未利用地の情報収集などに取り組みます。また、操業に関する規制の合理化や法手続きの迅速化など操業環境の向上を図ることにより、県内での企業の新たな事業展開を支援します。</p>	③	<p>デジタル社会実現のためのインフラ整備については、企業誘致の側面だけではなく、様々なインフラの整備が必要であることから、デジタル社会実現のために総合的に取り組んでいくこととしており、施策9-5に記載しています。産業用地の確保については、新たな工業団地の開発には民間事業者の力が必要となってくることから、適地調査の結果を市町のみでなく民間事業者にも提供することとしており、官民連携の必要性は認識しております。</p>	市町

122	ビジョン	7,17		<p>・教育の分野でもここ数年大きく変化が生じている。今後、地域とともにある学校づくりがますます重要となっていくことから、コミュニティスクール等の取組強化が鍵となっていく。</p>	<p>② 社会の変化が激しく、求められる資質・能力も変化する中、子どもたちにこれからの社会を生き抜いていく力を育むためには、コミュニティ・スクールをはじめとした各地域との連携を進めていくことがますます重要となっています。</p> <p>このことから、ビジョンにおいては「家庭や地域との連携・協働のもと進める」としたうえで、プランにおいては、施策14-6の「地域との協働と学校の活性化の推進」を基本事業とし、保護者や地域の方々が学校運営に参画し、一体となって子どもたちを育む取組を推進していくこととしています。</p>	市町
123	プラン	9,10		<p>・学校が子どもの貧困等のプラットフォームとしての役割が進み、福祉と教育の連携についても重要となっている。一方、学校や教職員の業務の拡大が年々進み、授業や子どもに向き合う時間を十分に確保できない現実がある。学校において家庭の支援等、福祉的な対応が求められる中、スクールソーシャルワーカー等の福祉の専門職の配置拡大等、「チーム学校」としての役割分担と対応力強化が必要である。</p>	<p>② 学校には子どもの貧困等のプラットフォームとしての役割が求められ、福祉等の関係機関をはじめとしたさまざまな主体と連携しながら「チーム学校」としての役割分担や対応力強化が重要となっています。施策14-5では、複雑化・多様化する教育的ニーズへの対応に向け、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなどの専門家を活用して子どもたち一人ひとりの状況に応じた支援を実施することとしています。</p>	市町